

水の恵み

水。それは生命にとって、なくてはならぬものだ。私たちにあっては水道の蛇口をひねるといつでもきれいな水が出てくるのが当たり前であり、水について考える時間は少ないだろう。私も蛇口をひねっただけでいつでもきれいな水が使えるということに感謝していかなかった。そこで、ふだんあまり意識することのない水について考えてみることにした。

ある日、祖父が私にこう言った。

「美穂、知ってるか。おじいちゃんの小さいころは、今みたいな豊かな水はなかったんだよ。」

祖父の言葉に私は

「えっ。」

とおどろいた。祖父の小さいころは水道がなかったとしても、今のよういきれいな水がい

山添村立山添中学校 一年

今久保 美穂

つでも手に入ると思っていたからだ。すると祖父は

「今みたいに、きれいな水はなかったんだよ。水道もなかったしなあ。」

と言った。水道がなかったということは何となく分かっていた。

「じゃあ、どんなふうにして水を手に入れていたの。」

「井戸からくんだり、雨水をためてたんや。」祖父によると、五十年前までは飲み水は井

戸からくみ、お風呂の水は各家にある貯水池に雨水をため、その水を使っていたそうだ。

私だったら、雨水のお風呂なんて気持ちが悪くてきつと入れないだろう。しかし、そのこ

ろは井戸水か貯水池にためた水のどちらかしかなく、貯水池にためた水をお風呂に使ったのだ

ろう。

井戸は共同で、私の家から少しはなれていて、急な坂道が多い。その道を女性が毎日、おけなどを持って水をくみ、何回も往復していたそう。ふだん、不自由のないくらしをして、私には考えられない生活だ。

私は水道の水が出なくて困ったことが一度だけある。それは、簡易水道の工事をするために、半日だけ断水になった時だ。たった半日だけでも食器が洗えなかったり、トイレの水が流せなかったりと、とても不便だった。

つい最近、熊本県で大地震があり、甚大な被害が出た。そこでは、水が止まっている所も多く、被災された方々はとても困っておられる。たった半日でもとても不便だったのに、それが何日も続いたらどれだけ不便なのか私には想像もつかない。

私たちの一番身近にあるのは水道水だ。その水は一体どこからくるのだろうか。それは、ダムや川の水を浄化して私たちの元に届けられる。そのダムや川の水は、空から降ってきた雨が地中にしみこみ、それがやがて川の水となって流れ、それがせき止められたものが

ダムの水となる。

つまり、地球の水は循環している資源なのだ。生活排水や工業廃水によりひどく汚れた水は浄化しにくい。なので、私たちはできる限りよごれた水を流さないようにしたり、節水をするなど、いつまでもきれいな水が使えるように努力することが大切だ。このまま地球の水がよごれ続けると、私たちの元にきれいな水が届かなくなってしまう。そうならないために、自分にできることを考えて行動に移すことが大切だ。永遠にきれいな水の循環が続くために：